

ゆづり 議会だより

主な内容

表紙：湯川中学校「紫陽祭」

- | | |
|--------------------------|--------|
| ◆ 村民と議会の意見交換会 | P 2 |
| ◆ 12月定例会提出議案審議他 | P 3～5 |
| ◆ 一般質問（7 議員が村政を問う） | P 6～12 |
| ◆ 議会活動報告 | P 13 |
| ◆ 議会の主な動き・編集後記 | P 14 |

平成28年

第96号

1月28日発行

『中学生最後の思い出』～全員で創った自分たちの紫陽祭～



住民の率直な意見に耳を傾け…

— 平成27年度「村民との意見交換会」を開催 —

今回の意見交換会は次のように行われました。

- 日 時 11月29日(日) 午後1時30分
～2時50分
- 場 所 ユースピアゆがわ 1階 多目的ホール
- テーマ 『ふるさと納税の活用方法について』
- 参加者 村民7名、議会議員10名、事務局1名



今回で4回目を迎える「村民との意見交換会」も少人数とはいえ、様々な試行錯誤を繰り返しながらも、一定の形が出来てきたと思います。

今回は、いま最も関心が高いであろう「ふるさと納税」をテーマとして2班に分かれて議論を重ねました。コメ農家支援を目的に始まった「ふるさと納税」ではありますが、全国から予想を上回る約3億7千万円(9,797件)の寄附金が集まったわけです。

村は、水田10アール当たり4,300円の農家支援を行い、残りを農業振興基金として積立てましたが、改めて納税いただいた寄附金の使い道を考えようというのが今回のテーマ設定の背景です。

基本的に農家支援で始まった納税制度ですが、地域農業を支えることにつながるならと、幅広い観点での弾力的運用を求める意見が多かったような気がします。

率直な意見を述べ合い、ざっくばらんに語り合う中で、村政の課題も見えてきた部分もございました。



※交換会後に取ったアンケートの結果をお知らせいたします。

- 機会があればまた参加したいか ➡ 全員参加する
- 開催時期について ➡ 11月(85%)
- 2班式開催方法 ➡ 良かった(71%)
- 次回のテーマについて ➡ 学童保育、活性化計画、福祉・教育、道の駅
- ご意見・ご感想
- ・議員の方と身近に話せた。
 - ・有効な交換会だった。
 - ・充実した時間だった。

質疑あれこれ

＜議案第79号 税条例の一部改正＞

問 平成28年4月1日以前の税金に対しては、地方税の徴収の猶予は適応にならないのか？

答 あくまでも平成28年4月1日以降の地方税に対する猶予である。それ以前の税金に対しては相談窓口で対応していく。なお、今回の地方税における猶予制度の一部改正は、国税の改正に合わせたものである。

＜議案第80号 一般会計補正予算＞

問 放課後児童クラブの教室が狭いとの声があるが、ユースピアを使用することはできないのか？また、冬期間のバスでの移動はできないのか？

答 現在30数名を預かっており若干狭く感じる。ユースピアの使用やバスでの移動については今後前向きに検討していきたい。



問 人・川・道の駅拠点整備事業は今年度で終了となるのか？

答 第1次整備事業は終了となる。平成28年度以降に河川に公園整備の申請をしている。
また、トイレ脇の土地利用についても施設の建設等も含め検討していきたい。

問 ふるさと納税で今年度は農家に一反当たり4,300円（総額40,477千円支出）を助成するが、農家支援に対する効果は？また、農家の方だけの支援でなく、村民に広く使用できるような内容の募集はできないのか？

答 前回の助成では農家の方からはとても助かったと聞いている。来年度は、非農家の村民の皆さんにも広く還元できるような内容での募集を検討したい。

問 浜崎地区2か所、佐野地区1か所の道路拡幅工事が予定されているが、予算の増額と冬期間の工事を考えれば4月以降に工事を変更できないのか？

答 当初予算で概算額を確保したが、その後設計の変更等により工事費が増えてしまった。
本工事は集落内からの強い要望でもあり年度内完成のため早急に工事に着手したい。

問 職員の時間外勤務手当の増額補正について業務改善を図るべきではないのか？

答 残業は担当課長が許可をして執務しており、今後は適切な業務配分の指示に努めたい。

問 予備費の充当・増額についての基本的な考えは？

答 本来であれば補正予算で対応すべきものである。今回は時間がなかったためだが、経過について議会に報告すべきであった。今後はこのようなことがないように行政執行していきたい。

＜議案第81号 国保特会補正予算＞



問 昨年度よりも予算総額が40,000千円増額している。今後も予算は増加傾向にあるが、医療費給付抑制についてどのように考えているか？

答 各集落で実施している健康体操への参加者の増を図るとともに、家にいるだけの生活から少しでも外に出て、近所の人と会話することができる体制をとっていきたい。
健康なお年寄りがいっぱい溢れるようそのための政策を立てていきたい。

問 ジェネリック医薬品を使用することにより村への還元はあるのか？

答 使用率が交付金算定の基礎となる。

小学生が本会議を傍聴

湯川村議会議員のみなさまへ

先日は、私たちに議会の質疑を見させていただき、ありがとうございました。

議会では、サッカー場の所にある築山のこと、箕川バスのこと、桜の木を移植すること、道の駅のレストランのことなどいろいろな話がありました。とくに私がすごいと思った事は、村民の声を取り入れて「うすれはいいのではないか」「それは、いつなのか」と具体的な話をしているところでした。湯川村の村民の生活が、少しでも良くなるように考えて下さっているのだと思いました。

これからも、湯川村の将来のために頑張ってください。

箕川小学校 6年

牧野 絵麗菜

湯川村議会議員のみなさんへ

今日は議会を見学させていただき、ありがとうございます。議場が真剣な雰囲気になっている中で見学できてとてもうれしく思いました。

今日までは、改めて湯川村がたぐいさんの問題をきかえていることがわかりました。ほんの3、40分の質疑の中で道の駅、あじか公園、サッカー場の築山、箕川バス、など多くの問題について話し合われました。他の議員さん達もそれぞれに質問することや考え、どう解決するの質疑になるのか想像もできません。しかも、一つについていいねいに話し合っていたので大変なことだと思いました。

また機会があれば議会を見学させていただきたいです。これから湯川村の議員としてよりよい湯川村の未来のために元気で頑張ってください。今日は本当にありがとうございました。

箕川小 6年 佐藤 樹

村議会を見学してはくは、村の人々のために色々考えてくれてとてもありがたいなと思いました。はくは、スポーツをやっていいます。スポーツのためにも、グラウンドにナイター設備を付けようという事も考えてくれているので、今後、どうなるのが楽しみです。

他にも、びっくりした事が「あります。それは、国会みたいに、質問した人に、色々な人が答えてくれる事です。はくが思っていたのは、質問した人には、答えてくれる人がいて、1対1でやりかた思っていました。なので、質問に応じて色々な人が答える事がびっくりしました。最後に、貴重な議会を見せてくれてありがとうございました。

勝常小 6年 田中 亨



箕川・勝常両小学校の6年生が12月議会定例会を傍聴に訪れ、一般質問が行われているところを熱心に聞き入っていました。

児童の皆さんから感想を頂きましたので、その一部を紹介させていただきます。

村議会を見学させていただきました。

村議会では子供達の事などを話し合っていました。子供達の事をしんけんにも考え話し合っているということを知ってとてもうれしくなりました。質問された事をすぐに正しく答えているので「とてもすごい」と思いました。質問された事をすぐに正しく答えているという事はいろいろ調べたんだなと思いました。いつでも答えられるようにたくさん調べている村長さんと教育長さんは「世の中の人のためにもすごい仕事をおこなっているんだな」と思いました。見学させていただきましたありがとうございました。とても勉強になりました。

勝常小学校 6年 井上 里菜



村商工会行政懇談会に参加して

11月20日、会津若松ワシントンホテルで行われた懇談会に出席しました。行政からは村長、議長、産業建設課長と私の4人です。

今後の湯川村商工観光振興策について話し合われ、平成28年度湯川村商工業振興事業補助金等要望書が提出されました。

- ①湯川村小規模企業振興基金条例の制定について
 - ②既存誘致企業の支援と企業誘致について
 - ③商工観光交流課(仮称)の新設について
 - ④村内創業(開業)支援事業補助金の創設について
 - ⑤経営発達支援事業(国県等補助事業)の補助金の創設について
- 要望書を受け取りました。
経済常任副委員長 山口 啓子





高倉 好博
議員

村政を問う

一般質問

12月定例会

問

TPPから本村農業を守る手立ては

答

施策の検証と新しい取り組みが必要

平成27年10月5日、米国のアトランタで開催された閣僚会合において、TPP協定が大筋合意された。

今般の合意は、日本にとっても「国益を確保し、次の世代に繁栄と活力を受け継ぎ、日本の未来を切り拓く歴史的な第一歩である」という意見もある。しかしながら、農業部門における影響は計り知れず、国に対し不安払拭のための早急な施策を望んでいる。

1つには、強くて豊かな農林水産業、美しく活力ある農山漁村づくりに向けた体質強化対策である。担い手の育成や確保、農地の集積、集約化、農業生産性の向上、国産の強みを活かした差別化や6次産業化等による高付加価値化など農業の体質強化対策の具体化である。

2つ目は、米、麦、牛肉

・豚肉などの重要5品目対策である。米については、備蓄運営による外国産米の主食用米生産に対する影響を食い止めること、牛肉、豚肉については、経営の継続・発展のための環境整備を図ることである。

村では、これまでもTPP交渉参加への反対を訴え続けてきており、その姿勢は変わるものではないが、国の動きに合わせて、より足腰の強い農業基盤を築いていかなければならないと考えている。

問

生涯学習向上のための現在までの活動状況は

答

【教育長答弁】

教育委員会が主催する生涯学習講座と教室については、次の5つに整理し、募集会員を基本に主体的な取り組みを行っている。

①幼児教育

「キティちゃんの会」

◇対象：幼児と保護者

◇活動：子育て支援のため

の学習会や相互の交流活動

◇会員：5家族16名

◇内容：親子でダンス、夏を楽しもう、公園で遊ぼう、料理を作ろう等、年間9回、日曜日。

②青少年教育

「お話広場」

◇対象：幼児と小学生と保護者

◇活動：読み聞かせ、昔語り、手作り絵本の製作など参加者5名程度。年間16回、土曜日。

「茶道教室」

◇対象：小中学生

◇活動：茶道の基本作法やお茶会などを体験

◇会員：9名。年間12回、土曜日。

「少年少女探検隊」

◇対象：小学3年生以上

◇活動：自然体験、文化体験活動

◇会員：9名

◇内容：お座トロ列車に乗ろう、おいしい地学実験、サイクリング、しめ縄つくり等、年間5回。

③成人教育

「英会話教室」

◇対象：高校生以上

◇活動：ALTのビリー氏



少年少女探検隊より

を講師に、初級程度の英会話講座やお楽しみ会

◇会員：6名。毎週水曜日。

④婦人教育

「あじさい学級」

◇対象：成人女性

◇活動：趣味、健康、食生活、郷土文化など

◇会員：22名。会津五桜研修、絵手紙、研修旅行、講演会等、年間6回。

⑤高齢者教育

「ゆがわ村塾」

◇対象：60歳以上の男女

◇活動：健康・趣味講座、研修旅行、他団体との交流など

◇会員：19名。新庁舎見学、蒔絵体験、料理教室、姥堂あやめとの交流など、年10回。

村政を問う

一般質問

12月定例会

山口 啓子
議員**問** 筈川小の築山の移設について**答** 校庭南側に年度内移設

旧筈川幼稚園跡地を活用した村営筈川駐車場整備工事は、11月2日着手、3月25日竣工で進んでいる。

築山の移設は、この駐車場整備工事の中で一体的に行うようになっており、移設場所については、教育委員会と調整し筈川小学校の要望どおり、校庭南側に隣接するように計画している。

問 筈川農村公園の植栽工事の時期について**答** 計画どおり順当に進捗

この農村公園は、平成14年度に福島県森林環境交付金の交付を受けて、植栽を行い整備した。

それ以降、樹木の一部に生育が芳しくない個体が発生していたため、今年度、生育状況の悪い樹木を伐採

し、新規に5種類の桜を植栽する工事を行っている。

補助金と基金を活用するため、県農林事務所及び公益財団法人福島県都市公園・緑化協会と事業についての詳細を協議したため、発注時期が若干遅れた。しかしながら、桜の植栽の時期については、施工業者にも確認したところ、11月から現在の時期が最も適しているということであり、現在の進捗状況については計画どおり順当に進んでいる。

問 道の駅の経営責任について**答** 坂下町とともに明確な経営体制を今後検討

道の駅あいづ湯川・会津坂下の指定管理者である株式会社湯川会津坂下には、現在、道の駅の駅長を含め3名の取締役があり、取締役会の決議で選任し、駅長が代表取締役となっている。道の駅の運営の統括責任者である駅長と株式会社湯川会津坂下の経営の統括責任者である代表取締役が同一

であるため、道の駅の運営上に生じる諸問題の対応についての運営責任と経営責任が明確化されていないということは聞いている。

しかしながら、現時点で湯川村が所有している持ち株割合だけでは、経営体制の改善策を講じることはできないため、今後については、共同設置者である会津坂下町との協議の場を設けながら、どのような経営体制であれば、道の駅の運営責任と会社の経営責任が明確化され、円滑な道の駅の運営と会社運営が行えるのか、改善策について、次期株主総会で討議できるように努力していきたい。

問 筈川バスの維持管理経費について**答** 年間8百万円超、維持について今後検討

筈川生活交通路線バスは、自分で移動手段を持たない交通弱者には必要不可欠な交通手段となっている。本年度の本村の運行費用

負担額は、8,135千円になる。利用状況については、7月9日の乗降調査によると、西若松駅東口発筈川小学校前行きは1日で42人、1便当たり平均7人の利用、筈川小学校前発西若松駅東口行きは1日で40人1便当たり平均6.7人の利用であった。村民に限ったバス利用者は特定できないが、少人数であろうと推察する。

人数的に少なくとも、利用者がいる限りは筈川バスを廃止にはできないため、当分の間は現状を維持しながら、村の財政的負担が少ない筈川バスに替わる手立てがないか検討したい。



筈川学校前で出発を待つ会津バス

村政を問う

一般質問

12月定例会

篠竹 正弘
議員

問

浜崎地区県道バイパス工事の進捗について

答

計画的に執行中

県道浜崎・高野・会津若松線の浜崎地区バイパス工事については、村でも県に對し継続して要望活動を行っている。

県では、本路線を「ふくしま道づくりプラン」において生活幹線道路と位置付け、笈川地内の歩道の整備などを進めてきた。浜崎地内のバイパス事業についても、平成25年度より浜崎工区として事業採択となり、これまで測量や設計など必要な調査を進め、今年度は地質調査を12月から行うこととなっている。また、県ではJRとも計画や既存踏切のあり方などについて協議を重ねている。

なお、地元浜崎地区への説明会を今年度中に開催すること、現在、県と調整を進めている。

問

浜崎地区内への大型車両の進入対策は

答

通行禁止の規制を設ける

現在は、県道を管理する会津若松建設事務所が上田谷地地区周辺に設置している注意看板に「幅員減少の為、大型車の直進は御遠慮下さい」と表記し注意喚起しているのみである。

会津坂下警察署に相談したところ、道路交通法での「大型車両通行禁止」の規制を設けてはどうかという提案をいただいたので、今後はそのような方向性で対処したいと考えている。



標識看板

問

国調における調査票紛失に伴う対応について

答

県の指示を受け迅速に対応

今回の国勢調査における調査票紛失事故については、被害者の個人情報保護の關係から詳細については答弁を控えるが1件あった。

答

【総務課長答弁】

国勢調査における調査票等の取扱いについては、事前に説明会を開催しトラブル等の起きないように万全を期したが、調査票の紛失という信頼を損ねる結果を引き起こしてしまった。

本件は、調査員本人が調査票1通を紛失してしまっただけで、心当たりもなく発見できなかったため、調査員本人から会津坂下警察署に電話で「紛失届」の手続きをとった。被害者に対しては県の指示のもと誠意を持って迅速に対応した。

現在も問題の解決には至っていないが、今後とも関係者と連絡を取りながら誠

問

消防屯所の老朽化に伴う改修計画について

答

未整備の為、早急に整備したい

老朽化した消防施設の改修等については、その都度協議のうえ緊急性の高いものから予算化し、改修しており、中長期的な改修計画までには至っていない。

村内には、消防屯所やポンプ庫が28施設あり、建築年次が不明なうえ老朽化している施設も数多い。

村では、新地方公会計制度に移行するにあたり、現在、固定資産台帳等の整備を進めており、村内の各消防施設を一体的に点検・精査し、村の財政計画や過疎地域自立促進計画に合わせた改修計画を早急に整備したいと考えている。

村政を問う

一般質問

12月定例会

小林 昭員
議員

問

TPPから本村の農業を守るための対策は

答

独自の施策を展開

村として、農業者の不安払拭のため、独自の施策を講じる必要があります。まずは担い手確保の対策である。高齢化が進む中、今年度は認定農業者の掘り起こしに努め106名となった。農地中間管理機構への農地集積を進め、規模拡大、集積化を進めながら耕作放棄地の発生防止に努める。一方、湯川米のPR、ブランド化をさらに進めるべく事業の成果検証を行いながら効果的な催しを選択し、知名度アップに努めたい。園芸品目については、冬場の収入確保のため、農業施設、資材等購入に対する助成制度を積極的に推進し、余剰労働力の有効活用を図りたい。農地の持つ多面的機能の維持・向上に向け、村では現在、15の集落が多面的機能支払交付金事業に参加している。今年度5つ、来年度1つ参加もほぼ決まっ

問

ふるさと納税、今年の農家支援は

答

基金積立と反当り四、三〇〇円の助成

おり、村全体に広め、農地の多面的機能が持つ生産機能、景観形成、水源の涵養などを次世代に残していかなければならないと考えている。

今年度のふるさと納税は、昨年度の約3.5倍の3億7千3百万円余り、9,797件となった。返礼品のコシヒカリは、10月14日から随時配送している。

今年度、返戻品発送による必要経費を差し引いた余剰金は、81,000千円となる。その使い道は、①本村の農業振興を図ることを目的とする「湯川村農業振興基金」へ40,523千円の積立。②米価概算金下落の補てんの一助として、米生産農家へ10アール当たり4,300円、総額40,477千円を助成。

問

ひとり暮らしの高齢者の訪問活動の現状は

答

関係機関が連携し計画的に実施

民生児童委員活動の7割以上が高齢者に関する事で、定期的に自宅訪問を行い、住民福祉係、保健センター及び地域包括支援センターと連携しながら地域での相談、見守りの訪問活動を行っている。

保健師の訪問活動は、民生児童委員との連携や、ケア会議での情報共有、支援検討により訪問が必要な高齢者をとらえ、優先度の高い方を随時訪問している。

問

各集落へのサロン機能とトレーニング施設の設置について

答

現在の体制や施設を再点検し充実を図る

サロン機能については、各集落で実施している介護予防事業を充実し、健康づくりや趣味、レクリエーションに関する活動を地域住民とボランティアが協働で運営する組織づくりを支援し、

高齢者の地域におけるふれあいの場として、生きがいづくりと地域の支え合いの力を高めることを図っていく。

トレーニング施設については、村地域ケア体制を充実、構築する中で、村有施設などにトレーニング機器を数台設置し、気軽にマシンによるトレーニングができる環境をつくり、高齢者の方が、要支援、要介護状態となることを予防するとともに、自立した日常生活が送れるよう、筋力、体力の向上を図れる体制整備を図っていく。

問

福祉灯油について

答

現在、実施計画なし

福祉灯油については、平成19、20年度に灯油価格の急激な高騰を受け、県補助事業を活用し「湯川村福祉灯油緊急支援事業」を実施した。

最近の灯油価格については、下落している状況にあり、現在のところは、支援事業を実施する計画はない。

村政を問う

一般質問

12月定例会

齋藤 賢一
議員

問 雇用確保のための工場・企業の誘致計画は

答 振興計画に位置付け

村では、商工業用地への土地利用の誘導だけでは工場・企業の誘致は難しいため、工業団地の整備を施策として検討する必要があると考えている。

工業団地の整備に要する経費は大きな財政負担を伴うため、出来るだけ経費を節減した工業団地の造成手法や分譲先を予約したオーダーメイド型の工業団地等を調査・検討し、造成に伴うリスクマネジメントも明らかにしたうえで、企業立地の最善の施策を第五次振興計画並びに国土利用計画に位置付けていきたい。

また、CLT工場の誘致については、現在立地できる用地はないが、山林がない村として、地の利を活かした原料の集積、製品運搬の優位性をPRし、誘致への努力をしていきたい。

問 小規模企業振興基本条例の制定の計画は

答 制定を前向きに検討

小規模企業振興基本法の制定により、地方公共団体においても、概ね5人以下の従業員で構成される小規模事業者に対して事業の持続的発展に寄与することとされたため、村としても、具体的にとどのような支援策が行えるのか検討しながら、条例の制定について前向きに検討していきたい。

問 幼小・中での英語教育の成果は

答 大きな成果あり
【教育長答弁】

英語教育の幼小中連携について、次の改善を図った。

① 幼小中における英語指導助手の学年段階に応じた指導時間の確保

② 中学校教師による小学生への英語授業の実施による小中連携の推進

③ 中学2年生のブリティッシュヒルズにおける英国文化体験

④ 中学3年生へ英検3級挑戦への啓発と受検料の助成

答 次年度へ前向きに検討

消防団員は、非常勤特別職の地方公務員である。様々な要因はあるが、団員の確保が困難な状況になつており、消防団活動等に支障を来す恐れがある。そのため、少しでも、魅力ややりがいを感じられ、消防団活動の士気を高め、精励してもらうためには、団員の報酬額や手当を改善することも重要である。

これから新年度予算の編成時期にはいるため、この機会に、団員の報酬額や手当の見直しを検討し、消防団の組織強化を図ってきたい。

問 小学校統合について

答 時間をかけて検討

児童数が減少傾向にあるため、今のうちからさまざまな議論を交わし、現在策定中の第五次湯川村振興計画の中に課題として明記し、学ぶ児童のことを最優先に考え、時間をかけて結論を導き出していきたい。

問 消防団の待遇改善について



消防団の出初式

村政を問う

一般質問

12月定例会

小林 孝一
議員選挙公約の具現化策
について問 第五次振興計画
の基本理念

の基本理念

答 将来を見通し十
分に検討

分に検討

第五次振興計画については、前大塚村政を継承はするが、選挙公約、所信表明、新年度に向けた施政方針といった内容を第五次振興計画の骨格部分に十分に位置づけたものとした。

また、基本理念については、第四次計画の結果等を十分に踏まえ、将来を見通した今後10年間におよぶ計画の基本理念でもあるため十分に内容を検討したい。

問 少子高齢化対策

答 事業の継続と内
容の充実を図る

現在、美田園の若者定住宅地分譲の完売、それに伴う住宅建設とCLT集合住

宅の全世帯入居により、小学生以下の子どもが17人増えるとともに、空き家改修の補助金を活用しての村内転入においても、小学生以下の子どもが4人増えている。これは、平成26年度の出生数16人を超えている。

このことから、今後、第五次振興計画策定並びに村国士利用計画の見直し等においても、若者定住のための宅地分譲や空き家改修の支援は、少子化対策の施策の根幹となるため、継続して取り組んでいきたい。

また、都会等からの若者等を受け入れるための公営集合住宅等の建設も視野に入れたと考えている。これについては、住宅等の需要及び建設に係る経費等を調査し、建設及び管理に係る十分な財政協議を行ったうえで、第五次振興計画の施策として取組めるか庁内協議を進めて行きたい。

さらに、少子化対策・子育て支援については、これまでの施策の発展・充実に努め、推進していく。今年度は各集落公園の113カ所の遊具等の点検を新たに実施

し、危険性が高く、早急に改善が必要と判定された45カ所を含め、10集落では村の補助金を活用し、補修を行った。

今後、このような地域での子どもの安全安心を確保する施策を実施し、子ども達の元気な遊び声が聞こえる地域づくりに取り組んでいく。

出産祝金、入学祝金、今年度から実施する高校生冬期間通学支援などの助成制度、また、幼稚園・保育所・放課後児童クラブ運営について、さらなる充実に努めていく。

問 社会的弱者対策

答 現在の施策の
発展・充実に
努める

高齢者の支援や社会的弱者対策については、現在の施策の発展・充実に努め、推進していく。

健康問題や経済的問題など、高齢者や生活支援を必

要とする方のあらゆる問題に対応できるよう、相談窓口の設置に取り組みたいと考えているが、役場・保健センター・地域包括支援センターなど、どの施設においても情報共有や連携による一体的な相談体制が構築できるように、まずは、現在の村の体制、施設の改善点を再検討し、現状の中でできる支援、事業を充実させることを考えていきたい。

高齢者タクシー利用料金助成事業は、現在、助成対象者見込350人のところ、337人の方に利用券を交付している。湯川村の地域事情の中で始めた事業であり、移動手段を持たない高齢者の通院支援、買い物支援、外出支援や様々な社会活動への参加促進の一助となり、好評を得ている。

このような施策を障害を持つ方の支援にも広げていきたいと考えており、湯川村の地域独自の施策を今後さらに知恵を絞って、「すべての村民が元気で活力ある村づくり」に向け取り組んでいきたい。

村政を問う

一般質問

12月定例会

菅沼 弘志
議員**問** 第四次振興計画の
検証作業について**答** 8割が達成率
50%以上

役場の各担当課において、第四次湯川村振興計画の検証作業を行った。

結果は、次のとおり
「未着手」が7.8%
「達成率30%以下」が12.1%
「達成率50%以上」が32.3%
「達成率70%以上」が47.8%
それぞれ、施策の方向性や課題について、第五次計画策定の中で検討したい。

問 第五次振興計画
策定の経緯と今
後の方向性**答** 3月定例議会へ
提出

これまで、4回の振興計画策定委員・幹事の合同会議と村民の代表者による「湯川村こころがふるさと村づくり会議」を3回開催した。

今後は、計画案が3月議会定例会に提出できるよう努力したい。

問 村長の公約と
振興計画の関係**答** 公約を計画に反映

策定作業を進めてきた振興計画基本構想案に、選挙公約が反映したものであるよう、現在調整を図っている。

なお、時間を要するものについては、振興計画案の課題として位置づけ、時間をかけて実現していきたい。

問 ふるさと納税の成
果と課題について**答** 知名度と生産意
欲が向上

「湯川村」を全国にPRすることができ知名度も上がり、農家の生産意欲も高まった。

自信を持って届けられる数量にも限界があるため、よく検討し募集を開始したい。目的や余剰金の使途については、「農業振興基金」への積み立てをはじめ、広範囲な使途について検討したい。

問 放射能問題について**答** 仮置場の現状と課題**答** 残2千9百㎡の
早期搬出

勝常地区にある仮置場については、11月に環境省が行った大熊町中間貯蔵施設内保管場への試験輸送を実施した。



一部搬出された仮置場

仮置場に保管していた約3千㎡の除染土壌のうち1千㎡を搬出し、現在約2千㎡がまだ残っており、次回はいっ搬出するのか、全量を搬出できるのかが課題である。

また、湯川中学校校庭内にある約9百㎡については最優先で搬出しなければならぬ。

問 脱原発・再生可能エネ
ルギーの普及について**答** 補助事業の普及
を促進

原子力エネルギー依存からの脱却を図るべきと考えている。そのため、再生可能エネルギーの普及に向け、新庁舎や道の駅等での太陽光や地中熱、風力を利用した発電を行い、一般家庭には、設備の導入補助を行っている。

太陽光以外の再生可能エネルギーの活用についても検討していきたい。

問 国・東電による年間放射
線量の見直しについて**答** 安易な判断は、住民
の死活問題に直結

「特定避難勧奨地点の解除」の基準値となっている放射線量は年間20ミリシーベルト以下である。本村で除染を行った際の基準値年間1ミリシーベルトと比較すると20倍の数値である。原発事故発生地点に近い被災地は、生活や健康に不安を抱えながら、東京電力の損害賠償や国からの支援が受けられるか、否かは、死活にかかわる問題である。国や東京電力の安易な判断により、不利益をこうむることのないように、原発事故による放射線量の高い地域やその住民を支援していかねばならないと考える。

全国町村議会 広報研修会に参加して

毎年恒例の町村議会広報研修会は、昨年10月20、21日東京都で開催され、広報広聴委員会の5名が参加しました。全国からは214、会津地方からは5町村でした。「議会広報紙の文章『伝える広報』から『伝わる広報』へ」と題し、柏崎市広報専門官を務める小田順子氏の講演では、現場の生の声を写真や実際の役所が使っている文書を通してリアルに批評した内容の講演は特に印象的でした。なぜ文書がわかりにくくなるのか、わかりやすく書くテクニク、伝わる文章の書き方など誰が聞いても納得のいく話し方には全員脱帽でした。議会運営委員長 菅沼 弘志

地方(まち・ひと・しごと)創生について

福島県町村議会議長会主催の議員研修会が10月22日に郡山市ビックパレットを会場に開催された。今回のテーマは「人口減少社会の自治体議会へ合併の回顧、地方創生、生涯活躍の町について」でした。

地方創生にはマクロ問題とミクロ問題が存在し、東京一極集中をいかに解消していくかが今後の地方再生には絶対に必要と感じました。若者の定住、若者の移住をどのように政策展開していくかは我々に課せられた大きな課題であり、果敢に挑戦しなくてはいけません。また、日本版CIRC構想にも注目していきたいですが、しかし、地方には限られた財政しかないので、バランスを取りながらの村政運営が強く望まれています。

広報広聴委員長 斎藤 賢一

石川町議会 ふるさと納税を調査

昨年11月16日、平成27年で2回目になる我が村のふるさと納税、平成26年・平成27年といずれも大盛況の事業となりました。そんな事業の研修で石川町議会常任委員会10名が来所しました。

内容的には、ふるさと納税の取り組み経過について、運営方法について、特産品の絞り込みについて、ふるさと納税のPRについて、今後の課題について、などでありました。一時間半くらいの時間内での懇談のつもりでしたが話は尽きることなく、二時間以上経過するほどの対話集会になり非常にいい時間を持たせていただきました。

総務文教常任委員長 高倉 好博

学校訪問 ―総務文教事務調査―

昨年11月25日、村内三つの学校における学校経営及び運営の現状と問題点等について調査するため、それぞれの学校を訪問させていただきました。各学校とも学校経営の概要説明、児童生徒について、教職員について、平成27年度の予算執行状況について、要望事項について、など親切丁寧に説明を受けました。

各学校とも細かなほころびはあるにしても問題点は見受けられませんでした。現在の教育現場は大変さが増していることと感謝します。そのご苦労に感謝申し上げます。より一層村の教育現場が良くなるよう努力を惜しみません。

総務文教常任委員長 高倉 好博

道の駅駅長に問う ―経済事務調査―

昨年11月26日、庁舎議場において、道の駅駅長との事務調査を行いました。オープン後一年が経過し、来場者が百万人を越し順調な滑り出しとなりました。

一方、課題も山積となつていきます。営業収益を上げていかには道の駅を軌道に乗せるのか。農産物協議会を活用して農産物の作り手をいかに広げ農家の収益を上げ地域を活性化していくのか。期間雇用や冬場の対策。特にレストランに対してメニューの検討や接客に対応した従業員の教育等、改善のための意見も出されました。今後とも駅長と経済常任委員会との事務調査を続けることを確認して終了しました。

経済常任委員長 小林 昭



湯川村議会の主な動き

- 10月23日 国道121号改良促進期成同盟会総会及び中央要望
猪苗代町合併60周年記念式典
- 25日 会津坂下町消防団・湯川村消防団秋季連合検閲
- 27日 両沼地方町村議会議員大会決議事項の県要望
三島大橋修繕代行事業起工式
第37回湯川村老人クラブ連合会スポーツ大会
会津東部土地改良区日橋堰地区竣工式・祝賀会
- 30日 少年の主張発表会及び作文コンクール表彰式
- 11月1日 「ジュゴン」ブロンズ像除幕式【写真】
戸ノ口堰土地改良区五穀豊穰感謝祭式典・祝賀会
議会全員協議会
議会広報広聴委員会
秋の村内防火パレード
総務文教常任委員会、ふくしま駅伝選手壮行会
- 10日 両沼地方町村議会議員大会決議事項の国要望
- 11日 第59回町村議会議長全国大会、経済常任委員会
- 16日 石川町議会議員所管事務調査のため来庁
- 19日 会津南部農業水利事務所開所式・祝賀会
- 20日 議会運営委員会、湯川村商工会行政懇談会
- 21日 第32回両沼地方交通安全町村民大会【写真】
- 25日 柳津町合併60周年記念式典
総務文教常任委員会学校訪問
- 26日 第505回臨時会、経済常任委員会道の駅調査
会津総合開発協議会臨時総会
- 28日 ゆがわ幼稚園発表会、議会全員協議会
平成27年度湯川村戦没者慰霊祭【写真】
- 29日 村民と議会の意見交換会
- 12月1日 議会全員協議会、議会広報広聴委員会
- 3日 両沼町村議会議長会臨時総会
- 4日 議会運営委員会
市町村対抗軟式野球・ソフトボール大会合同報告会
- 6日 平成27年度湯川村婦人消防クラブ総会
- 11～16日 第506回議会定例会
- 12日 福島大学研究・地域連携成果報告会及び交流会
会津塩川ライオンズクラブクリスマス家族会2015
- 18日 第27回ふくしま駅伝湯川村選手報告会【写真】
- 19日 第12回暴力団根絶会津坂下地区町村民大会
- 21日 湯川郵便局新局舎落成記念式典
葛飾区長と面談、葛飾区伝統職人会役員との懇談会
- 1月4日 平成28年湯川村新春のつどい
- 6日 年始知事懇談会、両沼地方町村議会議長会行政懇談会
- 8日 議会全員協議会
- 10日 湯川村消防団出初式
- 15日 湯川村へ第五次振興計画の提言書を提出【写真】
湯川村交通安全祈願祭



ジュゴン像除幕式



交通安全町村民大会



戦没者慰霊祭



ふくしま駅伝選手報告会



振興計画の提言書を提出

議会広報広聴委員会

高山小	菅	斎	
倉口林	委	沼	副委員長
好啓	員	弘	賢
博子	昭	志	一

近年の爆弾低気圧をはじめ、一年の降水量、気温の激変と今までに経験のない異常気象が頻繁に現れ自然の恐ろしさを感じるこの頃です。

雪のない穏やかな年末年始を迎え、平成28年が村民の皆様方にとって実り多い年でありますことをご祈念申し上げます。

本年の干支は、さる(申)です。申年からは赤色が連想されますが、赤色は情熱を表します。

本議会としても村民の負託と信頼に応えるべく情熱的に活動を展開してまいりますので、どうぞ村民の皆様のご理解とご協力を宜しくお願い致します。

(山口 啓子)

編集後記